

2019 年度事業報告

【1】30周年を経ての課題に向き合いながら

おかげさまでコッペは創業から30年以上の月日が経ちました。

成果もある一方、課題も多くあります。5年10年後の方針性も踏まえ、課題については主に理事会の中で検討を重ねてきました。

論点は以下の通りです。

*理事会の機能を強くする。

役員改選については現在の役員が継続となったが、外部理事の登用、若返りなどの検討が必要。理事会で事業計画・予算等も立案できるようになれば。定款で定めている理事の人数は、3人以上10人以内→実際に理事をお願いできる人はいるか、各自、依頼できそうな人を探す

*代表の飯嶋の後継者をどうするのか

まずは、飯嶋の業務を現在のスタッフで分担していくことをさらに進める。

志をおなじくする他のNPO団体との連携を図る（統合？業務提携？）

ハードルは高いが、「後継」問題は他のNPOでも同じ課題がある

*色々な方を受け入れるにはパン・クッキーを作る以外のことも検討してもいいのではないか

現状のコッペは手狭 メンバーの年齢も上がってくる

例えば、こんなことも考えられるということを出し合った

①ひこさんとの連携 貸貸することは考えていないとのお話

②旧「あづみ」さんの場所を借りる 製造場所とする

家賃 26万4千円…だいぶ無理。

③今の場所の2階の部屋をかりる 事務スペースにし、作業場を広げる

家賃 6万5千円…検討の余地はある。タイミング次第。

ショップにイートインコーナーを作ることも可能になる。

④いずれにしても地域の方も利用できるような場所にしたい。

*送迎についても考えなくては、

火・木・金の帰りは、配達の際に送ることは可能

月・水も帰りであれば可能性はあり

公共交通機関を使えるようになる練習も必要

移動サービスを通勤・通学にも使えるように制度の変更を要望していく

→参議院議員に「重度」の障害のある方がなったのは、制度を変えて行くいい機会

いずれもすぐには結論の出ない問題ですが、理事会の中である程度じっくり話し合うことができました。来年度も引き続き検討していきます。

なお、今年度は以下の3団体より助成金をいただくことができ、冷凍コールドテープル購入など行うことができました。ありがとうございます。

*東北ろうきん復興支援助成金より30万円

*七十七銀行愛の募金会より20万

*仙台建設業協会より5万（毎年いただいている）

【2】理事会

計9回行いました。10月理事会は台風のため中止。収支状況・販売・行事予定・会員の状況・ショップについて、麦の穂の発行といった議題等について話し合いました。コ

ッペでは、みんなで運営を考えていこうというスタンスでやってきました。理事会には都合がつく限りみんなに参加してもらいたいと思います。

【3】会員（2020年3／31現在）

正会員24名、賛助会員・寄付者123名（昨年度より6名減）

2018年2月1日を持って認定NPO法人として認められました。「認定」になったことを強みに会員・寄付者の増加を試みてきましたが、人数としては昨年より減少してしまいました。ホームページ上に寄付欄を設けることも検討しましたが、経費の面から実現していません。

認定NPO法人として継続するためには、年3,000円以上の賛助会員・寄付者が平均で100名以上いることが最低の条件です。安定して認定の条件をクリアするためにはさらに寄付者・賛助会員の増加が必要です。情報発信に努めながら賛助会員・寄付者の拡大に図りたいところです。ご協力を引き続きお願ひします。

なお、認定の有効期間は2023年1月31日まで。更新申請は、2022年の総会が終わってから8月ごろに行うことになります。

【4】社会教育の推進

会報「麦の穂」の発行 計4回 それぞれ250部前後

2019年 6月 10月 12月 2020年3月

今年度は予定通り4回発行できました。内容も充実していましたと思います。賛助会員の確保のためにも会報は大切です。しっかり定期的に発行したいと思います。随時原稿を募集します。

②ボランティアの受け入れ

認定NPO法人杜の伝言板ゆるるが主催している「高校生の夏ボラ体験」の受け入れ先となっています。毎年8名程度の方が体験に来られています。他に、中学生の職場体験の受け入れも行いました。

【5】就労継続支援B型「コッペ」の運営状況

①開設状況

開設日数は、257日／年、利用者延べ数は、3,630人（昨年257日／年、利用者延べ数は、3,715人）となっています。コッペの定員としては、20名。当初在籍は18名、10月より19名となりました。一日当たりの平均利用者数は、14.2人（昨年14.5人）となります。延べ数、平均数とも昨年を下回っています。その分給付費収入も減りました。

それを支えるスタッフは、常勤5名、パート3名です。それに区役所販売等を手伝っていただけるボランティア方々等に、協力して頂きました。多くのメンバーにも外へ出てもらおうと、配達・販売にもこれまで行っていなかったメンバーも参加してもらいました。土日のイベント販売時には障害メンバーも参加してもらえるとありがたいです。

②売り上げ

パンとクッキーの売り上げは、約2,344万／年（仕入れ販売分226万含む）、月平均195万となっています。2018年度の売り上げからは約125万上がりました。店頭販売・卸売り・外販とも順調に推移しました。コラボ商品の開発も売り上げ増の要因となりました。中でもワタリスさんからの直理のいちごを使った新しい直理のいちごクッキーの開発、そしてハンバーグのハチを開拓する（株）オールスパイスさんから製造委託（いわゆるOEM生産）を受けた商品名「ハチコロ」の開発は大きなものです。特に「ハチコロ」の開発にあたっては（株）オールスパイスさんからの多くのアドバイスをいただき、これまでのコッペにはないクッキーに仕上りました。

10月からは消費税が10%に上がりました。食品には8%の軽減税率が適用され今のところ直接的な影響は感じられませんが、仕入れ経費の実質的な値上がりなどが不安材料です。

なお、コロナウィルスの感染拡大の影響で3月からは区役所販売を始めほとんどのイベントが中止になるなど、3月以降の売り上げは確実に減っています。

③ 訓練等給付費収入

2019年度は2,822万ほどとなりました。前年度より約60万下がりました。前述したように平均利用者数が若干下がったことが要因です。2020年4月より新しく1名増員することとしました。

④ 工賃

障害メンバーの給料は、最高で76,500円最低16,000円、平均約51,124円となっています。平均は昨年とほぼ同じです。コッペの目的とする共に働くことの具体的な現われが工賃の金額です。その目標が達成できないのでは、コッペをやっていくこと自体の意味がありません。そのためにも売り上げの増加が必要です。

⑤ 収支状況

収支としては、約103万の赤字となりました。売り上げは増えましたが、給付費の減少や、法定福利費を含めた人件費の増加など支出は増加しました。

昨年に引き続き100万ほどの赤字決算であり収支状況の改善に取り組む必要があります。

⑥ コッペショップ

障害メンバーも一緒に店番・外販することが定着しました。月・水のミーティングの際に、次週以降の販売・店番を決めるようにしています。店番に関しては、お客様が来ない時の仕事をどのように構築するかが課題となっています。

キャッシュレス化に対応するために、電子マネー・クレジットカード決済ができる端末を導入したほか、ペイペイに対応できるようにしました。利用する人は確実に増えています。

他には、プラスチック袋の削減に対応するため、家庭に眠っている紙袋の提供を求めて再利用するなどの対応をして切り替えを進めました。

ショップカードの改善についても検討しました。スタンプが押せるように変更。以下の内容です。現在のショップカードがなくなり次第変更します。

- 1) スタンプ欄 8マス 2) 買い物ごとに1スタンプ（金額で差をつけない）
- 3) 特典 8ケ目でクッキー（350円）1ヶプレゼント 4) 5%引きは継続
- 5) 外販でも使えるようにする…表面の「コッペショップに」は削除。5%引きは端数が出て計算が大変なので、金額に応じて10引きとか20円引きとかにする。
- 現場判断で。6) ポイント欄へはサインでいい。

⑦ ホームページ

認定NPO法人になったことによるホームページの修正もできています。法改正に合わせ、貸借対照表などもホームページ上で見ることが出来るようになりました。フェイスブックは、主にイベントの告知等で活用しています。フェイスブックへの投稿がホームページに反映されるようになっています。麦の会ページへの「いいね」は500人を超えるました。

ホームページ上で、寄付金の入金ができるようにできないか検討しましたが、経費としてホームページの更新料が10万、月締めで5%手数料として取られるといったことであり、今回は見送りました。なお、セキュリティをアップデートすることは行いました。

た（費用3万）。

⑧放射能検査

みんなの放射能測定室でとてとに検査に出しました。検出限界は10ベクレルでいざれも不検出となっています。今後も定期的に検査に出し、安全性を確かめます。

原発に対しては、食品の安全という面でも反対の運動に協力していきます。

⑨食品表示・衛生管理

栄養成分表示の義務付けに対応するために、クッキーに関しては全種類検査に出し、パンについては、カロリーアンサーを利用して検査が終了しました。表示に反映ができています。

今後はHACCPの考え方に基づいた衛生管理が義務化されます。そのためのマニュアルの作成と記録の整備が必要になります。

⑩レクレーション・研修

- ・共同連名古屋全国大会 9月14日（土）～16日（月）
- ・一泊旅行 2019年度は行いませんでした
- ・いちえさん食事会招待 7月21日（日）・2019年1月19日（日）
- ・楽天招待 ゴールドマンサックス証券様より（宮城県社協を通じて）
協賛企業様より（東北福祉大を通じて）

【6】生活支援

麦の会としての取り組みはありませんでしたが、2018年3月よりグループホームで生活を始めましたMさんの支援は継続しています。

一方、移動支援を利用するメンバーは増えています。ショートステイを利用する人もいます。

麦の会として生活支援をすぐに行うという状況ではありませんが、そういった地域の資源を活用して経験を増やすための協力は続けたいと思います。

【7】NPO法人フルハウスとの連携

コッペの直接の運営母体は麦の会ですが、障害者総合支援法上は、NPO法人フルハウスが運営する形になっており、訓練等給付費もフルハウスを通じて入ってくる仕組みとなっています。給付費の請求事務は、もとになるデータはコッペで作成し、国保連への請求はソレイユから行っています。それに対して月1万円の事務手数料をソレイユに支払いしています。

フリースペースソレイユでは、2018年の秋からグループホームを立ち上げました。中古住宅を買上げ、男子5名定員での運営です。始まったばかりですので、世話人の確保や支援方法等大変な面もありますが、引き続き情報をもらいながら連携していきたいと思います。

【8】NPO法人共同連並びに東北ブロックについて

NPO法人共同連は、コッペの立ち上げからお世話になってきました。全国の共に働く事業所の団体です。

2019年の共同連愛知全国大会には、麦の会からも3名で参加しました。

共に生き働く社会の実現は自分のところだけではできません。これからも各地の仲間と共に取り組んでいく必要があります。

東北ブロックの活動としてはコッペの30周年に来ていただいたこともあり交流会は行いませんでした。